

盆踊りの輪地区に復活

内寛さん(左)と西方二丁目は「譜面がない上に言葉の意味が難しく苦勞した。伝統を守ること」に貢献できてよかった」と充実感に浸っていた。

同奉賛会の浜与志隆会長(右)は「盆踊りを復活させて昔の盛況ぶりを取り戻したかった。祭りを通じて、人を愛し、郷土を愛する心を広めていきたい」と話していた。



約20年ぶりに復活した盆踊りを楽しむ参加者—16日夕、福井市中手町の伊自良館前

20年ぶり上味見

100人 山里に活気 ちょうちん、太鼓彩り

に予定している祭りなどの一環として主催。廃校となった旧上味見小を拠点に活動するNPO自然体験共学センターのキャンプに参加している京都や大阪、滋賀、兵庫などの児童生徒約七十人も輪に加わった。

福井市美山地区の南東部にある旧美山町上味見地区で、伊自良温泉夏祭りが十六日夜、同市中手町の伊自良館前で行われた。過疎化で中止されていた盆踊りが約二十年ぶりに復活。県外の児童生徒らも多数参加し、百人以上の踊りの輪が山里の夜を活気づかせた。

夏祭りは、同館の指定管理者制度導入に伴い、運営団体として発足した地元住民グループ「伊自良の里振興協会」が、今年から始めた春祭りや秋

約二十年間、旧上味見小の倉庫に保管されていたちょうちん約五十個を会場に並べ、若者の太鼓演奏で幕開け。地元の宮本利子さん(左)と谷口美智江さん(右)が浴衣姿で踊りの手本となり、「イッチョライ節」「美山音頭」を舞い踊った。最後は味見河内町に伝わる「チョイヤサ」を水口一雄さん(左)の音頭と、宮本さんの合いの手で踊り、締めくくった。

宮本さんは「若いころはお盆に踊るのが楽しみで、夜通し踊った。若返ったみたいでうきうきした」。谷口さんも「子どもが一生懸命に踊っていてうれしかったと笑顔。伊自良の里振興協会の宮下一夫理事長(左)と神当部町は「久しぶりに盆踊りの音と子どもたちの声が聞こえ、本当にうれしい。続けていきたい」と話していた。